

知的障害者更生施設からの 退所事例への支援を考える

● スーパーバイザー ●

野中 猛（日本福祉大学教授）

● 事例提出者 ●

Nさん（知的障害者更生施設・生活相談員）

● 提出理由 ●

施設に入所中の男性・Aさんから事例提出者に対し、「将来の生活について相談したいことがある」と申し出があった。Aさんは、軽度の知的障害者（療育手帳B-2）であり、就労を目指して職場実習（ミニトマト栽培）に行き始めて6カ月が経とうとしている。今後、Aさんが目標とする生活を実現するためには、どのようなケアプランを立てて支援をしていけばよいのか、アドバイスをいただければと思う。

● 事例の概要 ●

○クライアント Aさん・26歳・男性

○生活歴 昭和55年、市内の病院にて出生。保育園に通っていた頃（5歳）に体調不良があり、受診すると腎臓疾患（ネフローゼ）と軽度の知的障害（療育手帳B-2）と診断される。その後は、入院しながら養護学校に通うようになる。高等部を卒業するまで入退院を繰り返す。平成13年（21歳）、知的障害者更生施設に入所し、現在に至る。

○コミュニケーションの状況

- ・意思表示：言葉での意思表示は十分に行える。しかし、内向的であり、積極的に自分から話すのは苦手である。
- ・他者からの意思伝達の理解：十分にできる。
- ・その他の意思伝達等：電話での連絡、手紙等での伝達はある程度行える。

○日常生活の状況

- ・ほとんどは自立している（衣服の着脱、食事、入浴、排泄、就寝時の配慮、移動、洗濯）
- ・一部支援が必要な項目：身だしなみ、衛生面（洗顔、歯磨き等）、衣服の整理、清掃、調理、シーツ交換・布団干し、金銭管理等

○Aさんからの相談内容

①将来の仕事について

- ・職場実習を通して、仕事をするにはある程度の自信をもてるようになったが、将来的にどんな仕事に就けばよいのかわからない。できれば早く就職したい。

②暮らす場所について

- ・今は施設で暮らしているが、将来は家族と一緒に生活したい。
- ・家庭の状況は、父親が精神疾患で働けない状態であり、母親のパートによる収入で弟を含めた3人が生活しており、早い時期に自宅に戻り、就職して両親の力になりたい。
- ・半面、アパートなどでのひとり暮らしやグループホームでの生活にも興味がある。

③自分の病気について

- ・ネフローゼの治療のため定期的に受診しているが、なかなか完治しない病気であり、将来に不安を感じている。



全国各地で行われている事例検討会の模様を誌上で再現します。検討会及び事例の内容は、プライバシー保護の観点から、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきました。

ケース検討会

野中 ありがとうございます。更生施設に5年間入所している26歳の男性の退所に向けての支援事例ですね。いまのプレゼンテーションで事例の大枠は理解できたと思います。まずは、もう少し細部の情報を確認して見立て（アセスメント）を固めていきましょう。その上で今後の支援の具体的な手立て（プラン）を考えていきたいです。では、ほかにどんな情報があるといいか、Nさんに質問してください。

ケースの全体像をつかむ（見立て編）

就労に関する能力について

発言 現在、ご本人は職場実習をされていますが、施設ではそこに至るまでの就労上のトレーニングはどのようにされたのですか？

Nさん 入所してから最初の1年間は、手工芸班という細かな作品を作る作業班に属していました。その後、本人の希望もあって、作物をつくる農芸班、外部からの委託作業である干しダイコンの袋詰め作業などをしました。その後、半年ほど前から現在の職場実習に出ています。

発言 作業能力はいかがですか？

Nさん 数を数えたり袋詰めの作業などは十分できます。問題は体力と作業スピードです。ただ、実習という鍛えられる環境に身を置いているせいか、ペースは徐々に上がっているようです。

野中 今は問題はないのですか？

Nさん 仕事内容の理解はしっかりできるのですが、まだスピードの面では課題があります。

野中 周囲と比べて何%ぐらいの出来ですか？

Nさん 65%ぐらいです。

野中 事業主としては6割できていればOKというところが多いですよ。障害者を雇用すれば、いろいろな補助金も付きますので。現在、実習にはどんなペースで通っているのですか？

Nさん 週5日、朝9時から夕方4時までです。

野中 どのくらいの期間続けているのですか？

Nさん 6カ月です。

野中 半年続けていれば継続性も十分ですね。職場での評価はどうですか？

Nさん 最初の頃は体力的な問題もあって仕事中にしゃがみこんでしまったこともあったようですが、仕事に慣れるにつれて周囲の評価も上がってきて、今はすっかりメンバーの一員として定着しているようです。そのことで本人も気安くコミュニケーションがとれるようになり、意欲がより向上するという好循環に入っています。

野中 すばらしいですね。そのまま実習先に就労できる可能性はあるのですか？

Nさん あると思います。

野中 就労能力についてはかなり見えてきました。その他の点について質問はありませんか？

日常生活能力について

発言 金銭管理能力はいかがですか？

Nさん 自分で数えたり、お金の認識はできますが、計画的に使うことはできません。

野中 「計画的に使う」というのは？

Nさん 目的別にお金を使い分けたり、平均的に分配して使うといったことです。

野中 何かトレーニングはしていますか？

Nさん 障害年金は月6万円出ていますが、まずは少額のお金から練習するために、毎月5000円を預けて金銭出納帳をつけてもらっています。

野中 5000円ですか。そこは少し工夫の余地がありそうですね。仮に5000円をうまく使えるようになって、それで実際に1カ月の生活全般の金銭管理ができるかといえば、そうではありませんよね。誰だっていきなりうまくお金を使えるようにはなりません。特に金銭管理は失敗体験がないとうまくできるようにならないという面があります。皆さんも経験があるでしょう（笑）。その意味で、「失敗を経験するプログラム」を織り込んでいく必要があるかもしれませんね。

Nさん そういう観点は全然ありませんでした。

野中 銀行は自分で使えるのですか？

Nさん ATMなどは使えないと思います。

野中 年金の通帳管理は誰がしているのですか？

Nさん 施設で管理しています。

野中 カードの使い方や通帳の管理ができるようにならないと、金銭管理はできません。そのあたりはプランニングのときに考えていきましょう。

発言 食事をつくる能力はどうですか？ アパートのひとり暮らしには必須になると思うのですが。

Nさん 施設の調理実習でみそ汁の作り方やごはんの炊き方は教わっていますが、ひとりのできるかどうかとなると、かなり心配です。

発言 服装がTPOに合っていないというのは、どのくらいズレているのですか？

Nさん 施設の中で着るジャージと外出時のズボンの区別ができないことがあります。日々の生活

のなかでトレーニングをしています。

野中 車の免許はとれそうですか？

Nさん 可能性はあると思います。推理小説なども楽しんで読める方です。

野中 ほう。赤川次郎とか？

Nさん はい、大好きです。

野中 それはかなりのレベルですね。十分、免許はとれそうですね。

Nさん 私もそう思います。

発言 友達はいいますか？

Nさん 幼い頃から病院と家庭の往復が中心の生活でしたので、家族と病院・施設のスタッフなど、人間関係はかなり限られています。

野中 でも、一緒に暮らしている仲間がいるでしょう。仲のいい人はいないのですか？



Nさん プライベートの行動を共にする仲間が3人います。男性2人と女性1人です。

野中 どんなことを一緒にするのですか？

Nさん 余暇時間に話をしたり、みんなゲーム好きなので、その話題で盛り上がったりしています。

野中 ゲームはどんなものですか？

Nさん 手で持てる小型のもので、ロールプレイングゲームの一種のようです。

野中 難しさの程度はわかりますか？

Nさん 私自身はやらないので、わかりません。

野中 どの程度難しいゲームで、どの段階までクリアしているのかを知ること、本人の知的能力を把握することができますよね。

Nさん なるほど――。

野中 能力把握をする場合、本人が好きでやっている作業で能力を見ていくことが大切です。気乗りのしない作業をやらせておいて「能力が低い」と判定するのはルール違反です。一度ゲームに詳しい人に見てもらってははどうでしょう。

Nさん わかりました。ゲーム好きの職員にでも見てもらいます。本人はパソコンにも興味をもっていて、いま購入計画を立てているところです。

野中 それはいいですね。本人はパソコンで何をしたいのかな？

Nさん ゲームだと思います。

野中 まずはゲームから入ればいいですよ。その次の展開は考えていますか？

Nさん ワープロソフトの使い方を習得する能力はあると思います。

野中 だったら、メールまではすぐですね。世界が広がりそうですね。

Nさん はい、そう期待しています。

家族の状況について

発言 お父さんは精神疾患があるということですが、年金はもらっていないのですか？

Nさん はい。事情はよくわからないのですが、申請していません。ですので、母親のパート収入数万円が世帯収入になります。そのため、時々ご本人の障害年金を借りたりすることもあるようです。それではいけないと思い、少し前に生活保護の可能性を探ろうと思って福祉事務所に確認したことがあるのですが、父親が通院のために車を持っているのがネックになるようで、現在は保留の状態です。

野中 車の車種はわかりますか？

Nさん 車名まではわかりませんが、5ナンバーの普通自動車です。かなり古い車だと思います。

野中 生活保護受給の場合、一律に認められないということではなく、「裁量の枠」というものがある

ります。通院・通所のためならば、オートバイはまず認められるでしょう。古い乗用車を認めるかどうかは、交渉しだいというところでしょうね。主治医に出てきてもらって福祉事務所に談判してもらおうと認められたりすることもありますよ。

Nさん なるほど――。

発言 実家は持ち家ですか？

Nさん そうです。かなり古い一戸建てです。

野中 訪問したことはありますか？

Nさん 一度だけあります。そのとき強く印象に残ったのは、とにかく家の中が散らかっていることでした。食卓とゴミの山と犬のエサが一緒にあるような状況で、座る場所もありませんでした。

野中 台所はどうでしたか？

Nさん 同じような状況です。最近よくテレビで報道されているゴミ屋敷に近い感じでした。

野中 その状態からどんなことを推測しました？

Nさん 両親、特に母親のほうに若干障害があるのかなと思いました。

野中 母親と直接話したことはありますか？

Nさん 本人に会いに施設にいらっしゃるときは、毎回面談しています。

野中 どんな方ですか？

Nさん とても引っ込み思案というか、息子さんと同じで、打ちとけるまでに時間がかかる方です。最近は私にも慣れて、わりとふつうに話をしてくださいますが、最初の頃は下を向いて最低限必要なことだけをボソボソと言う感じでした。

野中 スーパーでの仕事内容はわかりますか？

Nさん 商品の仕分けなどをしているようです。

野中 レジではないのですね。

Nさん 違います。

野中 見た目や服装、化粧はどうですか？

Nさん 決しておしゃれではありませんが、特別奇異というわけでもありません。髪もボサボサというわけではないですし、まあ普通とっていい

と思います。化粧はほとんどしていません。

野中 知的な部分はどうですか？

Nさん 正直、知的障害が若干あるのかどうか……迷うところです。

野中 プロが迷うレベルですね。母親のきょうだいの情報はありますか？

Nさん そこまではちょっとわかりません。

発言 弟さんの年齢や仕事を教えてください。

Nさん 弟さんは23歳で、現在無職で自宅にいます。時々アルバイトをしているようですが、定職には就いていません。

野中 ニートになった理由はわかりますか？

Nさん わかりません。

野中 アルバイトはどんな職種が多いのですか？

Nさん 肉体労働系のようです。

野中 最終学歴は？

Nさん 高校中退です。

野中 中退の理由は？

Nさん 登校拒否のようです。

野中 だとしたら、単なるニートではなく病気の可能性もありますね。

Nさん たしかに……。

発言 父親と本人との関係はどうでしょう。

Nさん 父親は定職に就いていないので、ほとんど家にいます。本人がかかわりをもつのは、通院を兼ねた帰省をするときです。1週間おきに土曜日に帰って母親と一緒に通院し、2泊して施設に戻ってきます。父親も静かな人なので、家で父親と会ってもあまり交流はないようです。

野中 対立はしていない？

Nさん はい。母親もおっとりした方ですし、バランスはいいのかもしれない。

健康面のマネジメントについて

野中 本人がかかっているのは内科ですか？

Nさん 総合病院の内科です。小さい頃からずっと

と同じ病院で主治医も変わっていません。

野中 それはいいですね、どんな薬が処方されているかわかりますか？

Nさん 資料がないので正確にはわかりませんが、ステロイド系の薬を1日3回服薬しています。

野中 なるほど。比較的多いステロイドを使っている場合は炎症や感染を起こしやすくなるので管理が難しくなります。管理を厳密にしなければいけない薬なのか、多少手を抜いても大丈夫な薬なのかは確認しておいたほうがいいでしょうね。

Nさん わかりました。

発言 ネフローゼの場合、尿のたんぱく量を管理する必要があると思うのですが、そのあたりはどのようにされているのでしょうか。

Nさん 施設の看護師が毎朝行っています。

野中 数値の報告は受けていますか？

Nさん いえ、看護師に任せています。

発言 ネフローゼでは栄養管理も重要ですが、きちんとできているのでしょうか。

Nさん 施設に入所する前、自宅で生活していた頃は栄養管理はできていませんでした。ともすると、食事そのものが抜けることもあったようです。内容的にも偏りがあるようでした。施設に入所してからは、管理栄養士が管理をしています。

野中 栄養管理の中身はどうですか。この人が朝・昼・夜にどんなものを食べているのかを管理栄養士さんは具体的に把握していますか？

Nさん 食事に関しては管理栄養士にまかせており、しっかりやってくれています。

野中 「しっかりやってくれている」という状況は、誰がどう評価した結果ですか？ ワーカーはこのクライアントの栄養管理に関する情報を管理栄養士からもらっていますか？

Nさん そこまではできていません。「栄養士が担当する」というところで留まっていました。

野中 おそらくそれぞれの専門職は自分の仕事を

きちんとこなしているのでしょう。しかし、1人の利用者を多くの専門職が支援する際には、それぞれが持っている情報を統合してマネジメントしていくことが不可欠です。施設がそれをしなければ、本人がセルフマネジメントできるはずがありません。施設を出て地域で生活するということは、栄養や薬や尿のたんぱく量などを自分でマネジメントしていかなければならないということですからね。

Nさん たしかに……。

野中 その意味でも、まずは施設内部で情報を統合し、マネジメントした上で「こういう生活をしようね」とプランを提示していくことが大切です。

Nさん よくわかりました。

支援策を考える(手立て編)

日常生活能力の向上に向けて

野中 ここまでのやりとりで、だいたいクライアントを取り巻く状況が見えてきました。5年間、知的障害者更生施設を利用している26歳の男性。実習先でも存在を認められており、小説を楽しむなど、かなりできることは多いようですね。では、本人の希望もふまえて、今後どのような支援をしていけばよいかプランニングをしていきましょう。皆さんのアイデアを出していってください。

発言 管理栄養士と看護師の情報を確認する。

野中 大事ですね。その上で、マネジメントされた情報を本人に渡すことが大切です。本来、それらの情報は本人のものなのですから。

Nさん わかりました。

発言 今後の生活を考えると、食事の準備が自分でできるようになることが重要だと思います。

野中 そうですね。施設でどう訓練していくかですね。インスタントラーメンあたりから始めて徐々にバリエーションを増やしたり、コンビニをど



う使うかなど、買い物をする場面から実生活に結びついたトレーニングをするといいでしょう。

発言 公共交通機関の利用のしかたを覚えて、一人で通院できるようにするなど、移動範囲を広げるのはどうでしょう。

野中 いいですね。そこに普通免許が加われば、さらに移動の自由を手に入れますね。

発言 友達が少ないようですので、携帯電話を使えるようにして、メール等でコミュニケーションの機会を増やしてみたいと思います。

野中 おもしろいアイデアですね。考えてみれば、今どきの26歳なら携帯を持っているのは当たり前です。また、この人の能力なら使える可能性もありそうです。施設としては携帯はどうなんですか？

Nさん 大丈夫です。今は居室も個室ですし、私物として管理してもらえば問題はないと思います。

野中 携帯を持つというアイデアはどうですか？

Nさん 今の今まで考えていませんでしたが、実習先との打合せや実家との連絡など、有効に使う機会はあると思います。メールもできるようになれば、より世界も広がっていきそうです。

野中 正直、私も念頭にありませんでしたが、この人はゲーム好きですし、パソコンにも興味もっていますから、尋ねてみるといいでしょう。十

分検討に値するアイデアだと思います。そういえば、以前アメリカで精神障害者に携帯電話を配ったことがありました。幻聴で困ったときSOSを訴えやすくするという狙いがあったのですが、誰かとつながっている安心感をもてたせいか、まったく電話がかかってこなかったそうです。携帯電話というのはそれぐらい力をもっているツールでもあるのです。ほかにはどうでしょう？

発言 金銭管理を自分でできるように、通帳をご本人に渡す。

野中 金銭管理の問題は重要ですね。ただ、一足飛びに通帳を渡しても、急にできるようになるのは無理なので、まずは銀行見学に行くなどして、銀行の使い方を覚えてもらうところから始めるのがいいかもしれませんね。それと、少額のお金を渡すのではなく、6万円なら6万円を全額本人に渡し、それから一緒に考えて「ジュース代は1カ月でどれくらいになるだろう」とか、「ゲームのソフトにはどれくらい使う？」といった話をしながら封筒に小分けにしていってはどうでしょう。最初はうまくいかなくても、この人なら数カ月あれば自分でできるようになると思いますよ。

Nさん わかりました、そうしてみます。金銭管理の関係では、貯金が100万円ほどありますので、大きな契約というか、欺されたりするのが心配なので、成年後見制度の利用も考えています。



野中 たしかに成年後見制度を視野に入れておくのは悪くないと思います、ただ、その前に大切なのは、彼らは断るのが苦手なので新聞を何紙もとったり大きな契約をしてしまうわけですから、まず断り方のトレーニングをすることです。それでもダメな場合に成年後見制度が必要になってくるわけです。その順序を間違えてはいけません。

Nさん わかりました。

就労実現に向けて

発言 現在の実習先以外でも十分就職先を考えることができるのではないかと思いますので、ハローワークと一緒に行って登録するとともに、いろいろな職場の情報を提供したいと思います。

野中 それはすぐにもできそうなことですね。今の実習先でも可能性があるということでしたが、具体的な時期は見えているのですか？

Nさん 今の段階では時期までは設定していません。心配な点として残るのは、病気を管理しながらこれから年齢を重ねていくなかで、うまくやっていけるのかどうかということで……。

野中 私がいつも不満に思うのは、どうして障害者だけが先のことを問われるのかということなんです。この人は半年というれっきとした実績があります。その実績でどうしてよしとしないのでしょうか。将来のことをいえば、私たちだって先のことはまったくわからないじゃないですか。障害者にだけ将来の心配をするのはフェアではないでしょう。

Nさん たしかに……。

野中 この人ぐらいいっかりとした能力と実績があれば、少なくともあと半年以内には実習先に結論を出してもらわなければいけません。実習というのは、いわばただ働きですから、その状態を継続するのは憲法に抵触する行為ですよ。この人の場合、ハローワークに話をすれば「トライアル雇

用」にできる絶好のケースですから喜んで協力してくれますよ。そうなれば、事業主には奨励金が支給されますから、本人にもお金が入るようになります。

Nさん わかりました。きちんと考えていきたいと思います。

自立生活に向けて

発言 ご本人はひとり暮らしをしたいという希望がありますので、アパートなど住居の選択肢を探してはどうかと思います。

野中 いかがですか、Nさん。

Nさん 当面は施設の敷地内にあるケアホームに移ることになっています。アパート暮らしはセルフマネジメント能力の点ですぐには難しいですが、将来の選択肢としては考えられると思います。

発言 家族の状況も気にかかります。父親の障害者手帳の取得や母親と弟もクエスチョンマークがつきそうなので、行政機関に連絡して対応をお願い

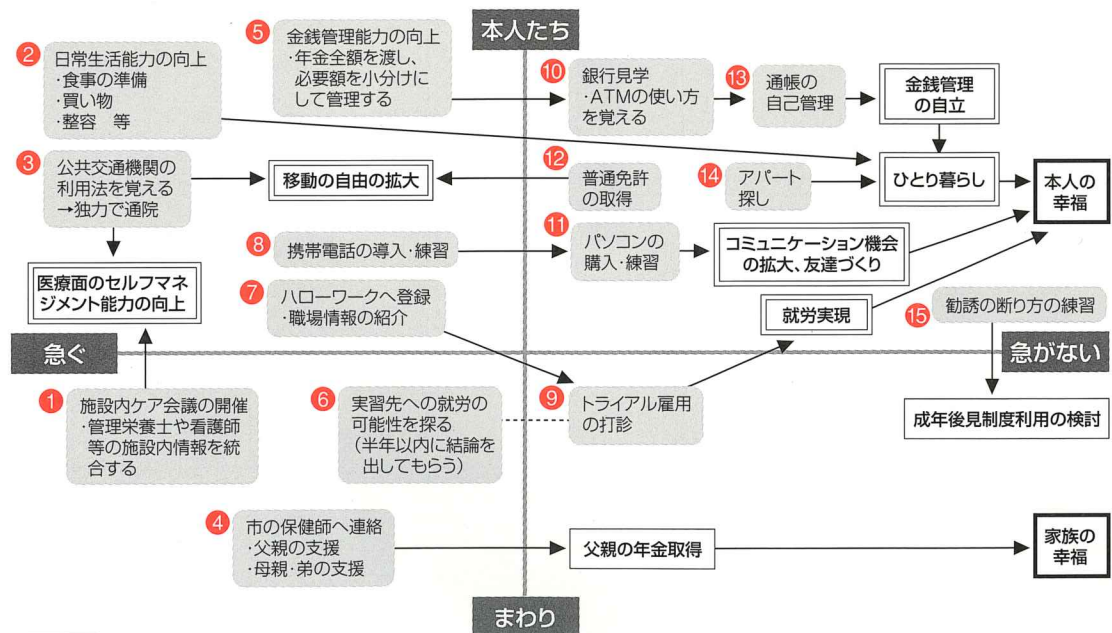
いしてはどうでしょう。

野中 そうですね。この場合は保健師が最適でしょう。直接のクライアントではない家族のことであっても、しかるべき機関に事情を話して対応を依頼するところまでは援助者の役割です。母親の場合は微妙ですが、とりあえず父親の年金がとれれば、息子の年金にまで手を出すことはなくなるでしょう。

Nさん わかりました。

野中 皆さんに出していただいたアイデアをまとめると、図のようになるのではないのでしょうか。いかがですか、Nさん。

Nさん とてもわかりやすく、頭の中が整理できました。ふだん施設で行っているケア会議では、どうしても援助者側の視点で考えてしまいがちですが、今日はご本人の生活に密着した現実的なアイデアをたくさんいただくことができましたので、早速明日から実践に移していきたいと思います。ありがとうございました。



※ は中期目標